

全国高専教育フォーラム実施報告

平成22年8月26日から8月28日の3日間、長岡技術科学大学を会場に全国高専教育フォーラム（主催 国立高専機構、後援 文部科学省）を開催しました。

フォーラムは、技術者教育に係る教育研究の質の向上、教育方法の開発推進のための研究・事例の成果発表や意見交換を行うことにより、高等教育機関としての教職員の資質や教育ポテンシャルの向上を目指すことを目的として、各種研究集会や講演会が開催され、国公私立高専、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学の教職員が3日間でのべ約1,000名参加しました。

初日の合同開会式では、国立高専機構木谷雅人理事、長岡技術科学大学新原皓一学長、豊橋技術科学大学神野清勝理事（副学長）による挨拶、国立高専機構赤坂裕理事によるフォーラムについての趣旨説明が行われたのち、特別講演Ⅰとして、金沢工業大学の石川憲一学長が「教育付加価値日本一をめざして～金沢工業大学の実践～」と題して講演したほか、プロジェクト研究集会、高専・技科大FDフォーラム、ワークショップ「GP等競争的資金について」等を開催しました。

2日目は、教育教員研究集会、情報処理教育研究発表会、カリキュラム検討研究会、電子制御技術教材活用プロジェクト発表会の各種研究集会を開催したほか、特別講演Ⅱでは、新原学長が「世界に翔く実践的技術者の育成をめざして～長岡技術科学大学での試み～」と題して、講演を行いました。特に、カリキュラム検討研究会では、高等教育の質の保証を踏まえた、国立高専機構全教員約4,000名を対象としたカリキュラム調査結果が報告されるなど、今後の教育の高度化に対し活発な意見交換が行われました。

3日目は、平成21年度教員顕彰受賞者講演、一般科目研究会が行われ、合同閉会式では、文部科学省高等教育局専門教育課神田忠雄企画官、赤坂理事による挨拶、教育教員研究集会（文部科学大臣賞2件、理事長賞8件）、情報処理教育研究発表会（4件）の表彰が行われ、フォーラムは盛大のうちに終了しました。

平成23年度の全国高専教育フォーラムは、鹿児島高専の主管により鹿児島市（鹿児島大学）で開催予定であり、国立高専機構では、教職員の一層の参加を募り、更なる教育の質の向上を目指し、内容の充実を図ることとしています。



更なる質保証へ・カリキュラム検討研究会

フォーラム2日目の午前中、「カリキュラム調査（平成21年度実施）」に係る調査結果および今後の展望を教職員全体で共有するために「カリキュラム検討研究会」を開催しました。

市坪 誠教育研究調査室長が高等教育機関の質保証や技術者の国際流動性に応える高専教育の充実の工程を説明した後、小林淳哉教育研究調査室教授（函館高専教授）がカリキュラム調査の目的と経緯を説明し、数学・英語等といったカリキュラム検討WG10部門を代表して、勇 秀憲建設・建築部門主査（高知高専教授）が中間報告を行いました。与那嶺尚弘仙台高専准教授／佐藤 淳鶴岡高専准教授が「カリキュラム調査の利用について～スキルの可視化による質保証への取組～」、大東由喜夫呉高専技術専門員が「技術系職員の教育研究支援の実態～授業の関わりから多様な支援実態まで～」の事例報告を行った後に、全体を総括して、会場の教職員と活発な質疑応答を行い、課題への対応は当事者である教職員全体で取り組むことを確認しました。

続いて、角野晴彦教育研究調査室講師（岐阜高専講師）がエンジニアリングデザイン教育調査の経緯と調査結果の報告を行い、小林淳哉教育研究調査室教授が「函館高専におけるエンジニアリングデザイン～退職技術者等を活用した総合的なものづくり教育～」、所 哲郎岐阜高専教授が「エンジニアリングデザイン教育システムに求められているもの～JABEEにおけるエンジニアリングデザイン教育への対応を目指して～」の事例報告を行った後、参加者と活発な質疑応答を行いました。

質保証に応えるために・一般科目研究会

フォーラム3日目の午前中、一般科目のさらなる充実のため、「科目別」と「科目間連携」の2つで構成される、「一般科目研究会」を開催しました。

まず、「科目別研究会」では、数学・物理・英語・国語・社会の5つの科目別研究会をそれぞれ並列に開催し、カリキュラム調査の中間報告と、参加者全員による意見交換会を行いました。特に、物理部門では学習到達度試験の試験結果の報告、英語部門では西澤 一豊田高専教授が教育拡充の方策「英語多読・多聴指導による英語教育改善の効果と展望」といった事例報告を行いました。

続いて、「科目間連携研究会」では、部門・分野別の到達目標や高専カリキュラムのあり方や充実の方策について、パネルディスカッションを行いました。パネリストは各部門主査で、数学：村岡良紀教授（有明高専）、物理：中村厚信教授（阿南高専）、英語：国重 徹教授（徳山高専）、国語：坪井泰士教授（阿南高専）、社会：白神 宏教授（北九州高専）、機械・材料系：立田節雄教授（旭川高専）、電気・電子系：山口一弘教授（茨城高専）、情報系：大西 淳准教授（津山高専）、化学・生物系：福地賢治教授（宇部高専）、建設・建築系：勇 秀憲教授（高知高専）、総合解説者：小林淳哉教育研究調査室教授（カリキュラム担当）であり、市坪 誠教育研究調査室長の進行により会場参加者全員と意見交換を行いました。

※一口メモ：KOALA（高専総合データベース）へGO！
「カリキュラム検討研究会」や「一般科目研究会」のデータ、「カリキュラム調査結果（生データと加工データ等）」は、KOALAに掲載しています。
KOALA→A_教育→09_全国高専教育フォーラム→H22（2010）開催（H22.9.26-28）→05_FDフォーラム・各研究会・受賞者講演会→研究会
KOALA→A_教育→02_教育課程→18_カリキュラム調査



カリキュラム検討研究会



一般科目研究会

□□□ 高専教育のさらなる充実のために・今後の予定 □□□

国立高専機構が取り組む、高専教育の充実に係る工程計画を別表にまとめました。

高専のモデルコアカリキュラムの策定とは、すでにとりまとめられている、医学教育、法学教育等のモデルコアカリキュラムや英国で導入されている客観的な最低基準などを参考に、加えて文部科学省「大学における実践的な技術者教育のあり方に関する協力者会議」と連携して、教育充実の当事者として技術者教育におけるコアカリキュラム（共通到達目標）のあり方を調査研究し、具体的なモデル構築を行う予定です。

平成22年度中には、モデルコアカリキュラム試案（一次案）をとりまとめるとともに、外部の有識者（下記、特別委員を参照）からご意見を伺う予定です。

なお、学科もしくは全学的なカリキュラム改革を予定する高専から、モデルコアカリキュラム試案の内容に対する問合せもあり、今後も機会を捉えて機構全体に報告し情報共有を行ってまいります。

※一口メモ：カリキュラム検討WG
教育・FD委員会／高専教育の高度化検討専門部会の下に設置された組織です。高専学校長から推薦された、10部門27名の教授・准教授で構成されています。全学科・全教科を対象とした学習内容・学習項目等の分類や「カリキュラム調査（全教員約4,000人対象）：平成21年度実施」等を実施して分析を行うとともに、高専教育の充実に向けたモデルコアカリキュラム（試案）の策定の検討を進めています。



カリキュラム検討WG全体会議開会挨拶（赤坂理事）

H19年3月～ H20年7月	中教審・高等専門学校特別委員会（12回開催）
H20年11月	「高専教育の高度化検討専門部会」の設置
H20年12月	中教審答申・高等専門学校教育の充実について 教育研究調査室・カリキュラム検討に着手
H21年7月～ 8月	カリキュラム調査・プレ調査（4校：宮城、沼津、明石、鹿児島）
H21年9月	「カリキュラム検討WG」の設置
H21年12月 H22年～1月	カリキュラム調査・悉皆調査（全高専：全教員4,000人対象）
H22年2月	理事談話「高専教育の充実」国立高専だよりVol.8
H22年8月	全国高専教育フォーラムにて中間報告
H23年1月	中教審答申・今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について
H23年2月	「カリキュラム検討WG・特別委員」の委嘱
H23年8月	（予定）全国高専教育フォーラムにてモデルコアカリキュラム（試案）の中間報告
H24年3月	（予定）モデルコアカリキュラム（試案）の発表
H26年4月	国立高専機構 第3期 中期目標・中期計画スタート

※年度途中の委員会、校長会等での審議・報告は省略



カリキュラム検討WG全体会議

□□□ 高等教育の教育内容の強化・特別委員の選任 □□□

カリキュラム検討を進めるに当たり、高専における共通的なカリキュラム内容について、学問的見地からの意見、また、高専卒業生を受け入れる産業界の観点からの意見等、（高専内部だけでなく）外部からの意見を取り入れることを目的として、上記のカリキュラム検討WGに大学、産業界等の有識者を迎えることとなりました。公益社団法人日本工学教育協会等から多数の推薦を得て、下記のとおり15名の先生方に特別委員の委嘱を行いました。委員の先生方のお力をかりて、高等教育機関としての教育の充実を図ります。

カリキュラム検討WG 特別委員名簿

大輪 武司	金沢工業大学客員教授・元東芝・元国立高専機構理事	塚本 真也	岡山大学大学院自然科学研究科教授
岡田 光正	放送大学教授	中村 隆良	大成建設株式会社人事部 部長
筧 捷彦	早稲田大学理工学術院教授	英 崇夫	徳島大学名誉教授・工学部創成学習開発センター顧問
桂 晃洋	株式会社日立製作所総合教育センタ技術研修所所長	原田 昭治	崇城大学工学部教授・九州工業大学名誉教授
門坂 綾子	三井化学株式会社人事部 部長	福山 直人	東京電力株式会社総合研修センター技術研修部長
上村 智彦	芝浦工業大学常務理事（学務担当）・工学部建築学科教授	藤田 肇	日本大学総合科学研究所教授 アジア・太平洋地区工学教育協会 副会長
定森 幸生	三井物産株式会社人事総務部グローバル人事推進室マネージャー 慶応義塾大学大学院経営管理研究科非常勤講師	丸山 武男	新潟大学名誉教授
		毛利 尚武	大学評価・学位授与機構学位審査研究部教授

* 役職は平成23年1月現在
五十音順（敬称略）

□□□ 高専の進化・特別教育研究経費の採択とフォローのために □□□

教育研究調査室は、特別教育研究経費で採択された事業を支援するとともに、優れたモデル事業（経験や知識、情報等）を横展開して高専全体の革新をフォローしています（15～18頁に代表的事業の概要を記載）。

具体的には、各高専の事業内容（進捗状況）を逐次確認し、事業開始時作成の「課題管理表」と「工程表」をもとに各事業遂行の支援（現地調査等を含む）を行っています。なお年度末には、事業ごとの報告書をまとめた、実践事例集の公開、このうち実施期間終了の事業及び選考された事業は全国高専教育フォーラム（平成23年度は鹿児島市にて開催予定）での発表を予定しています。

なお、昨年9月3日に東京国際フォーラム（東京都千代田区）で開催された国立高専情報発信戦略フォーラム2010「高専のこれからの情報発信を考える」は、「高専の情報発信戦略」事業を実施する8高専が高専相互に成果を共有しようとするもので、高専各校がそれぞれの個性や地域性を活かした、アレンジを行うことで、高専全体の発展につなげようとするものです。

※一口メモ：特別教育研究経費とは？

高専間での連携はもとより、地方自治体、地元企業、学術関係機関等と連携して行われる、継続的かつ自主的・自律的な改革を推進するために、希望する高専の中から特に優れた取組（①教育体制・教育課程に関する改革推進、②国際性の向上に関する改革推進、③高専の情報発信戦略に関する改革推進の3つの事業区分）に予算措置を行うもので、平成22年度は、32高専（平成21年度からの継続：25事業、平成22年度の新規：22事業、複数実施の高専を含む）を中心に積極的な取組が行われています。

KOALA→A_教育→04_教育の質の向上及び改善→12_特別教育研究経費（高専改革推進経費+機構戦略経費）

□□□ 高度の高等教育を目指して・制御教育からの挑戦 □□□

高専の制御教育に関する環境整備は、オムロン社の協力により飛躍的に進み、今後、これらのハード・ソフトを活用したさらなる教育の発展が重要となります。そこで、機構全体の取組として、制御教育プロジェクトを立ち上げ、以下のような活動を実施しています。

- I. 各高専における制御教育の実践事例の収集と共有化
- II. 制御技術に関する社会ニーズの調査
- III. 制御教育分野における機構全体の「共同教育」に対する検討と、制御教育キャンプの開催

※これまでの経緯

平成20・21年度：オムロン社から、全国の高専に電子制御技術教材5台と教材用ソフトウェア5台分、200万円の寄付など、総額2億2,500万円相当の寄贈を契機に以下の活動を実施

- ①電子制御技術教材活用セミナー（講師：オムロン社技術社員）：平成20年度から3年間で、延べ254名の高専教職員が受講
- ②電子制御技術教材活用プロジェクト：平成21年度、8校総額400万円（寄附金）を実施。全国高専教育フォーラム（平成22年8月27日）にて成果報告
- ③電子制御教材活用に係るアンケート調査：全高専対象として実施。オムロン社による訪問調査も併せて実施

制御教育プロジェクトメンバー

◎藤田 直幸	奈良高専教授、機構本部教授	兼重 明宏	豊田高専教授
櫻庭 弘	仙台高専教授	小坂 洋明	奈良高専准教授
小野 伸幸	長野高専教授	◎はリーダー	



開会挨拶（藤田リーダー）



制御教育プロジェクト発表会～ポスターセッション

海外インターンシップ

平成22年度で3回目となる国立高専機構主催の海外インターンシップは、新たに民間企業3社にご賛同いただき協力企業8社6カ国にて、59名(37国立高専)の応募者から22名を選抜し海外へ約3週間派遣することとなりました(今回は第1次派遣(冬休み)1社及び第2次(春休み)7社で実施)。

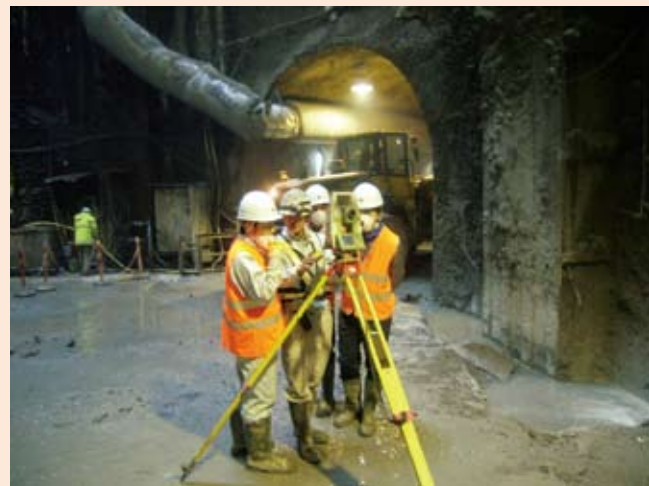
12月5・6日には八王子セミナーハウスにて事前研修を実施し、国際的リーダーの育成や異文化コミュニケーション、英語コミュニケーション、危機管理、社会人・国際人としての素養などを学び、演習を通じて高専を超えた学生間の交流も行われました。

第1次派遣として平成22年12月25日より大成建設(株)トルコにて学生3名は研修を開始し、この程全日程を終え、無事帰国しました。同社はトルコのボスボラス海峡横断鉄道トンネル建設工事現場にて受け入れていただき、派遣学生は歴史的プロジェクトに立ち会う貴重な経験をすることができました。

学生からは、「海外での仕事や現場、生活などの大変さを感じながら研修をしています」、「日々トルコ語と英語と日本語が飛び交う中で研修をしたこと、日本人とは違う価値観を持った多くの外国人と触れ合うことで、新たな目標もできました。」などのコメントがありました。



事前研修 英語コミュニケーション演習



大成建設 研修風景

《派遣先企業(国)、派遣学生、期間》

○…平成22年度新規協力企業

○ 大成建設(株)(トルコ) H22.12.25 ~ H23.1.15	○ (株)小松製作所(インドネシア) H23.3.5 ~ H23.3.28
呉高専 専攻科2年 佐藤友彦 徳山高専 専攻科1年 濱崎翔平 苫小牧高専 5年 本内洋平	旭川高専 5年 山内秀明 一関高専 5年 千葉駿吾
○ 新日鉄エンジニアリング(株)(タイ) H23.3.6 ~ H23.3.28	ツネイシホールディングス(株)(フィリピン) H23.3.6 ~ H23.3.26
明石高専 専攻科2年 生田麻実 仙台高専(名取) 専攻科1年 松本若菜 群馬高専 専攻科1年 金澤類	弓削商船高専 専攻科2年 橋本友彰 鹿児島高専 専攻科1年 宮原景信 旭川高専 5年 荒井航
東洋エンジニアリング(株)(マレーシア) H23.3.6 ~ H23.3.28	トヨタ自動車(株)(タイ) H23.3.6 ~ H23.3.26
久留米高専 専攻科1年 轟木沙緒里 沖縄高専 専攻科1年 白久レイエス樹	長野高専 専攻科1年 塚本晃輔 鈴鹿高専 専攻科1年 山脇昂 松江高専 専攻科1年 寺本翼
(株)森精機製作所(スイス) H23.3.1 ~ H23.3.20	ヤマハ発動機(株)(タイ) H23.3.5 ~ H23.3.27
新居浜高専 専攻科2年 内田頼克 沼津高専 専攻科1年 早苗駿一 久留米高専 専攻科1年 筒井あかり	豊田高専 専攻科1年 河村祐輔 高知高専 専攻科1年 岡崎佑平 鈴鹿高専 5年 天本涼太

キングモンクット工科大学ラカバン(タイ)と学術交流協定を締結

《交流協定の締結》

国立高専機構では、2011年1月10日付けでキングモンクット工科大学ラカバン(KMITL)と包括的学術交流協定を締結しました。この協定は、国立高専機構の中期計画で学生や教職員の海外交流を促進するため、海外の教育機関との国際交流を推進するの方針に沿って、2009年9月にシンガポール3ポリテクニクと締結した交流協定に続き、国立高専機構としては、2件目の締結となります。

KMITLの間では、具体的な計画として、2011年にKMITLキャンパスを会場として、「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術をテーマとする、学生による研究発表を主体とした国際シンポジウム」(ポストASET)を開催することで話し合いが進められています。

また、タイが地理的にアセアン諸国の中心的位置に有ることから、シンガポール、香港、マレーシア、インドネシア等の高等教育機関と、今後活発な交流を展開する事を計画している国立高専機構に対して、KMITLよりサテライトオフィス開設の提案を受け、その準備を進めています。

これらの交流を通じて、各高専が、KMITLとの学生交流、教職員交流の企画を策定し、更に、活発な交流活動を推進することが期待されています。



交流協定書

《交流の歴史》

2005年12月22日に舞鶴高専と学術交流協定を締結し、学生の派遣、受入れの具体的な交流が始まりました。

2006年3月10日に仙台電波高専(現仙台高専)と学術交流協定を締結し、学生・教職員の交流が始まりました。

2007年4月25日に舞鶴高専は、インターンシップ覚書を締結し、地元企業とも連携し、KMITLからの学生受入れを開始しました。

2009年度より、舞鶴高専はKMITLにインターンシップとして学生を派遣し、単位認定を行う制度を開始しました。

2010年12月に舞鶴高専、富山高専がKMITLを訪問し、中部日本高専5高専のうち、4高専でKMITLからのインターンシップ生を受け入れることで合意しました。

《交流活動の事例》

○学生の受入れ

(2007年度)
・舞鶴高専で学生8名、引率教員2名を受入れ。このうち、2名は日進製作所で研修を実施
・仙台電波高専で学生10名、教職員3名を受入れ

(2008年度)
・舞鶴高専で学生8名を受入れ。このうち、2名は日進製作所で研修を実施

・仙台電波高専で学生12名、引率教員2名を受入れ

(2009年度)
・舞鶴高専で学生20名を受入れ。このうち、2名は日東精工で、4名は日進製作所で研修を実施

・仙台電波高専で学生14名、引率教員2名を受入れ

(2010年度)
・舞鶴高専で学生20名と引率教員2名を受入れ。このうち、2名は日東精工で、2名は日進製作所で研修を実施

・仙台高専で学生12名、引率教員3名を受入れ



仙台高専での授業風景

○学生の派遣

(2006年度)

・舞鶴高専で学生約80名、引率教員2名を派遣

・舞鶴高専で専攻科生3名を派遣

(2007年度)

・舞鶴高専で専攻科生1名を派遣

・舞鶴高専で機械工学科学生全員と引率教員2名を派遣

・仙台電波高専で長期インターンシップ(5カ月)として学生2名を派遣

・仙台電波高専で海外研修旅行として学生24名、教員3名を派遣

(2008年度)

・舞鶴高専で電子制御工学科学生全員と引率教員2名を研修旅行で派遣

・仙台電波高専で長期インターンシップ(5カ月)として学生3名を派遣

・仙台電波高専で、海外研修旅行として学生29名、引率教員3名を派遣

(2009年度)

・舞鶴高専で海外インターンシップとして学生4名を派遣

・舞鶴高専で電子情報工学科学生全員と引率教員3名を研修旅行で派遣

・仙台電波高専で、海外研修旅行として学生28名、引率教員2名を派遣

・仙台電波高専で長期インターンシップ(5カ月)として学生2名を派遣

《キングモンクット工科大学ラカバンの概要》

学校名 King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang (KMITL)

所在地 タイ国 バンコック東部地区

学生数 約22,000名

教員数 約800名

学部 7学部

工学部 (Faculty of Engineering)

建築学部 (Faculty of Architecture)

農学部 (Faculty of Agricultural Technology)

産業教育学部 (Faculty of Industrial Education)

理学部 (Faculty of Science)

情報技術学部 (Faculty of Information Technology)

農業産業学部 (Faculty of Agro Industry)

カレッジ (4 Colleges)

ナノテクノロジーカレッジ (College of Nano-Technology)

データストレージテクノロジーカレッジ (College of Data Storage Technology)

経営管理カレッジ (College of Administration and Management)

国際関係カレッジ (International College)

URL <http://www.kmitl.ac.th/>



KMITLのキャンパス内風景

国立高専第3学年編入学試験〔外国人学生対象〕

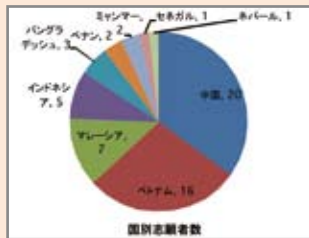
2011年度入試として、新たに外国人学生を対象とした第3学年編入学試験を実施しました。

○願書の受付期間：2011年1月5日～11日

出願者数は、57名で、募集した34高専に対して、第1志望から第3志望までを含めると32高専に対して、延べ167件の志願がありました。

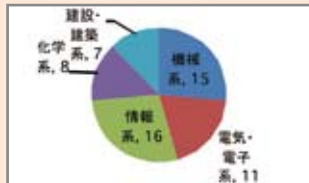
国別志願者数

国名	男	女	計
中国	15	5	20
ベトナム	15	1	16
マレーシア	4	3	7
インドネシア	2	3	5
バングラデシュ	3	3	3
ベナン	2	2	2
ミャンマー	2	2	2
セネガル	1	1	1
ネパール	1	1	1
合計	45	12	57



志望学科別志願者数

第一志望学科	男	女	計
機械系	13	2	15
電気・電子系	8	3	11
情報系	16	0	16
化学系	3	5	8
建設・建築系	5	2	7
合計	45	12	57



出願者の年齢は、1990年生まれが全体の40%強を占め、1992年生まれ(18歳)～1986年生まれ(24歳)までの学生が出願しています。

現在、そのほぼ全員が日本語学校に在籍しており、首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉)から出願したものが、86%を占め、近畿圏(大阪、京都、和歌山)からの出願が12%を占めています。岩手からも1名の出願がありました。

○面接試験：

2011年1月26日(水)、国立高専機構本部(田町CIC)で実施されました。

○合格発表：

2月15日(火)13時に国立高専機構公式ホームページ上に合格者の受験番号が、合格した高専・学科別に掲載されるとともに、各高専より合格通知、並びに入手続書類が郵送されました。

高専・学科別の合格状況は以下のとおりです。

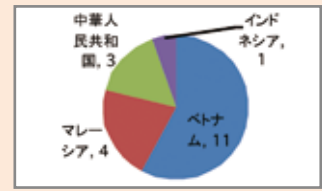
高専・学科別合格者数

高専名	学科名	人数
函館工業高等専門学校	物質工学科	1
茨城工業高等専門学校	電気電子システム工学科	1
	物質工学科	1
木更津工業高等専門学校	電子制御工学科	1
東京工業高等専門学校	機械工学科	2
	情報工学科	1
長岡工業高等専門学校	機械工学科	1
	物質工学科	2
	環境都市工学科	1

国別合格者数

国名	男	女	計
ベトナム	10	1	11
マレーシア	2	2	4
中華人民共和国	2	1	3
インドネシア	0	1	1
合計	14	5	19

高専名	学科名	人数
鈴鹿工業高等専門学校	電気電子工学科	1
	材料工学科	1
明石工業高等専門学校	建築工学科	1
津山工業高等専門学校	機械工学科	1
	電気電子工学科	1
	情報工学科	2
広島商船高等専門学校	電子制御工学科	1
合計		19



志望学科別合格者数

第一志望学科	男	女	計
機械系	4	0	4
電気・電子系	3	2	5
情報系	4	0	4
化学系	2	2	4
建設・建築系	1	1	2
合計	14	5	19



○入学状況

高専・学科別の入学状況は、4月上旬に国立高専機構公式ホームページに掲載いたします。

アジアの学生の高専体験プログラム 報告

国立高専機構では、留学生交流促進センターの担当により、平成22年9月13日～17日の日程で、アセアン・東アジア地域の外国人学生を対象に、沖縄高専および熊本高専を会場とした高専体験プログラムを実施しました。これは高専の修学・生活体験を通じて国立高専への留学意識を高めることを目的としています。

1日目の開講式では、国立高専機構・林理事長が歓迎の挨拶と高専制度の紹介・解説を行った後、同・伊東留学生交流促進センター長(沖縄高専校長)からの挨拶がありました。引き続きオリエンテーションで、プログラムの概要説明、学生寮での生活についての説明、参加者による自己紹介が行われました。午後からは沖縄高専のキャンパスツアーで、図書館、スタジオ、夢工場等の施設の紹介・説明が行われました。2日目は沖縄高専生物資源工学科・山城教授、磯村助教、渡辺技術職員等によって環境に関する体験授業が行われました。視聴覚ホールにおける講義の後2班に分かれ、慶佐次では生態的な構成と役割について説明を受けてマングローブの観察に臨み、ウップマビーチでは、海岸散策による海岸動植物や漂流物の観察、陸と海の生態系のつながりについての学習を体験しました。3日目に熊本高専に移動し、4日目はNOK熊本阿蘇事業所とオムロンリレーアンドデバイス2班に分かれてそれぞれ工場見学をし、同午後から、熊本城と水前寺公園の史跡見学によって日本の歴史文化に触れました。最終日は、創造性開発体験授業として3グループに分かれ、電子工作(風を感じる電子回路の製作、LED懐中電灯の製作)、ストローによる斜塔(ストローとセロテープにより斜塔を製作し、傾斜角、高さ、強度を競う)に取り組みました。

沖縄高専では全参加者が学生寮での生活を体験し、海外からの学生も高専生もそれぞれの所属学校の紹介を交互に行い、旧知の友人のように共に過ごしました。閉講式では、冷水国際交流委員会委員長、外国人学生代表、高専生代表が、それぞれに体験プログラムの感想を述べ、有意義であった一週間を振り返りました。



慶佐次にてマングローブ観察前の説明



全員集合!

「第8回全国高専テクノフォーラムの開催について」

第8回全国高専テクノフォーラムが平成22年8月18日(水)・19日(木)の2日間にわたり、大分市コンパルホールを会場に開催されました。

全国高専テクノフォーラムは、国立高専機構主催で、産学官・地域連携をテーマに毎年開催されており、平成15年度に北海道地区で第1回目が開催され、その後、順に開催地を南に移し、全国8地区の最後となる8回目の今回は、九州沖縄地区の高専が担当で大分高専を世話校として実施されました。

今回は、「高専の研究力・連携力/～その展開とイノベーション～」をサブテーマとして開催され、全国の高専関係者、企業関係者、自治体関係者、大学関係者など約350人の参加者があり、大変盛況でした。

開会にあたっては、国立高専機構・林理事長、同・大城実行委員長(大分高専校長)の開会の挨拶に続き、以下の来賓の方々から祝辞をいただきました。

文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課技術移転推進室長 橋爪淳氏

経済産業省九州経済産業局長 滝本徹氏

九州地方知事会会長 広瀬勝貞氏(大分県知事)

九州市長会会長 釘宮馨氏(大分市長)【代理：磯崎賢治大分市副市長】

続いて、以下の3名から、それぞれのテーマにより基調講演を行っていただきました。

経済産業省九州経済産業局長 滝本徹氏

テーマ：「ものづくり先進地域九州の挑戦」

国立高専機構理事 五十嵐一男氏

テーマ：「高専における産学・地域連携の現状と課題、その解決に向けて」

平田機工株式会社代表取締役会長 平田耕也氏

テーマ：「グローバル化進行市場における事業展開」

午後からは、全体パネル討論Iとして「地域産業政策・地域ニーズと高専の産学官連携」を討論のメインテーマとして以下の3名による話題提供の後、参加者による総合討論を行いました。

大分高専教務主事 清水啓一郎氏

テーマ：「大分県の産業政策と本校の取り組み」

株式会社トヨタ車体研究所業務統括部長 上別府徹氏

テーマ：「高専の産学官連携協力会組織の現状と将来展望について」

鈴鹿高専教授 江崎尚和氏

テーマ：「鈴鹿高専における産学官連携-SUZUKA産学官交流会との10年の歩み」

また、引き続き、全体パネル討論IIとして「出口を見据えたプロジェクト(成功事例)」をテーマに次の4名による話題提供の後、参加者による総合討論を行いました。

佐世保高専教授 長嶋豊氏

テーマ：「共同教育による『もの創り』で地域連携から国際連携へ」

北九州高専准教授 久池井茂氏

株式会社セントラルユニメディアカルシステム部 松本純氏

テーマ：「システムLSIを用いた医療用高速・高精度ロボットシステムの研究開発」

富山高専准教授 袋布昌幹氏

テーマ：「生体内物質循環をヒントにした新発想エコソリューション

～建設廃棄物リサイクルを中心に～

いずれの総合討論においても、会場からは活発な質問や意見があり、内容の濃い議論が行われました。

2日目には、「出口を見据えた産学連携(成功事例)」、「環境・エネルギー問題への取り組み」、「人材育成への取り組み」、「一般研究成果」に関する4テーマの口頭事例発表が5会場であり、熱心な質疑応答、意見交換が行われました。

また、パネル展示会場においては、機構本部、高専、大学及び企業等から多数のポスター・資料が展示され、コアタイムには活発な質疑応答が行われました。

平成23年度は、1巡目を終えた全国高専テクノフォーラムの新たな出発として、東京高専が世話校となり開催される予定です。



林理事長の挨拶



文部科学省研究振興局研究環境・産学連携課・橋爪技術移転推進室長の祝辞



ポスター展示会場の様子